



新累解脫物語

~13
3912
2



3912
2

新累解脫物語卷之二

東都 曲亭馬琴纂脩

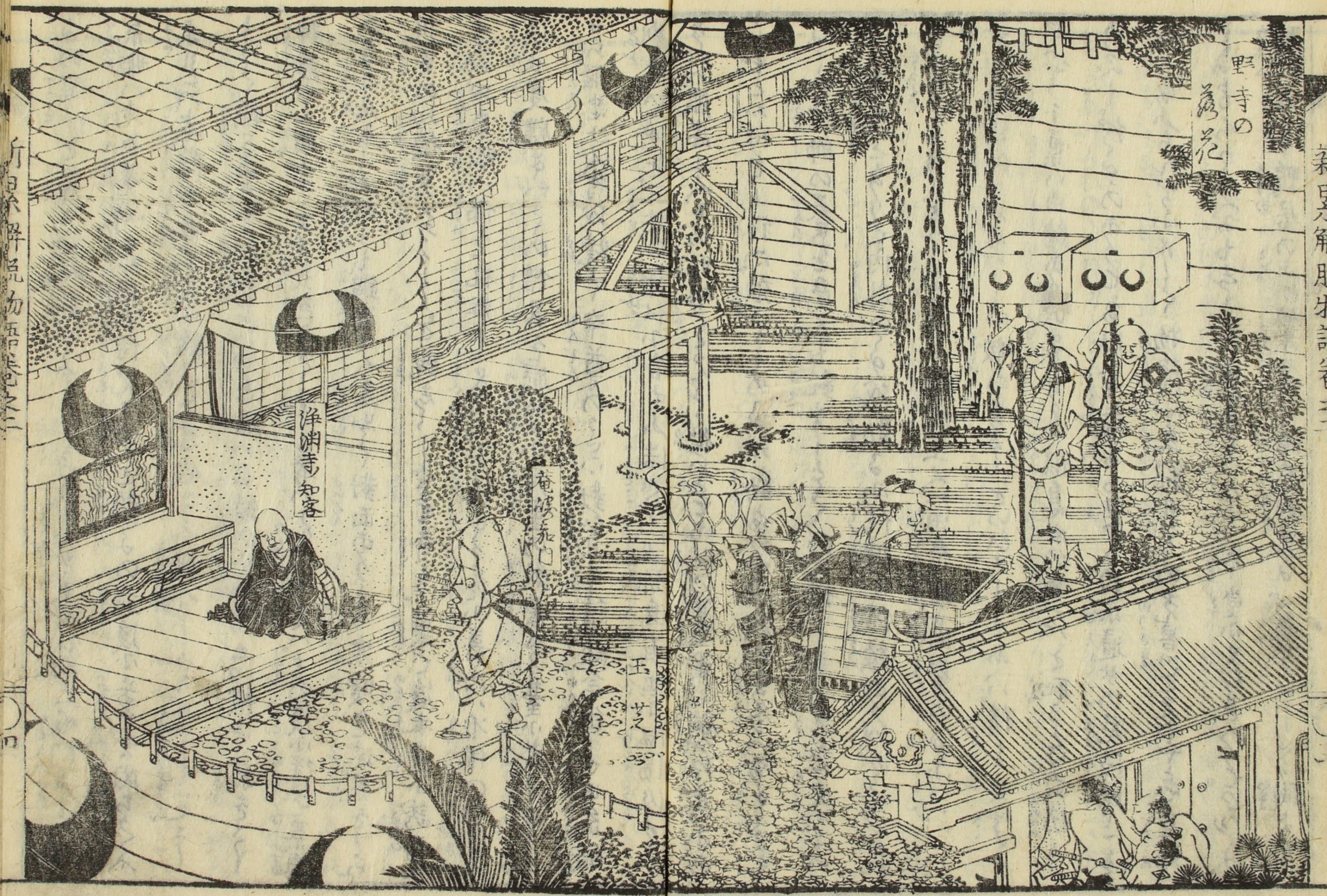
第三

醜婦世を觀みどり剃度を願ふ
美男を窺みどり誓縁を結ぶ

天公萬物を造り小ち巧拙あり。そが中に小ち女子の醜い女ら。世に小ちあまのりのへのど。
あのあのれ。美人らももども賢いあのあのど。醜い婦らももども愚いあのあのど。彼れ
いのれは人に憎まれどいのいのとは深い死に孟け光か伯も鳥小嫁に。義遠が坂額を娶むら。
或はいの賢い小ち愛を或はいの勇を慕むら。から奇に耦の亦稀あり。さらにはいのいのとは小ち
痛いいのれ。十葉惟流の息女田系姫のうへとと一朝難痘小ちとと花月の面を
影夜又のどと妻としより。鏡といふのいふともれども。身の形をたを乾かす
つ。消やすぬ露の玉の緒やるた人の數もももいふべい。かくももいふべい小ち物のあのりに。王芝

新累解脫物語卷之二

が艶麗なるをとりつつけし。これの千葉家の嫡女と生れあひ。過世あはて
 つる影あり。彼は又深山木の。つらなるをみれば。花の顔白く。世の
 風流士小あつるべし。女の姿なり。女とさきあつる。いづる禍の神り憂わぬ。あ
 めの。や形とを黒闇女小似たりとも。吉祥天と夢めん。後世の勤肝
 要るれと。只且暮小佛と礼拜し。近曾剃髪の願ひ頻り申す。その
 まぐく父惟胤小す。さるる。惟胤もいと便あは。は。あまが醜なりし
 よりの母の憂ふ。小あひは。三年己前小身まうた。ともくとも誓縁を
 結ぶと。たうもる。彼が望を稱得と。さるる。つら。悪業を消滅し。
 又。つら。母のあつる。もよる。遂小剃髪と許されたり。さるる。浅
 草の御ある。淨淵寺の住持。性善鑑忠上人の道德灼然しく。まうも
 師擅の因あり。これを導師小あひ。むべし。と。臆て彼寺小使者と遣
 へ。縁由を告ぐる。小。田系瓶の世に捨世小捨らる。身や。あは。さるる
 小野の道徳小あつる。もんとのり。日鑑忠上人と老僧一両筆
 の外に遠く退し。あつる。と。さるる。惟胤諾む。さるる。淨淵寺小消息し。
 本月某日。女兒とまの。但し剃度の時。野法師を。さるる。夜。
 彼甚厭へり。この。と。あつる。と。頼む。と。さるる。鑑忠
 上人の縁故と。あは。行童道人ホ。あつる。僧衆小。さるる。山門の
 外小退し。髪剃の老僧と。さるる。飯沼の弘経寺より。未。寄宿と。さるる。
 新渡意鳥有と。只この二人。あつる。弱僧道人ホ。さるる。外の外あり。
 僥倖ありと。あは。女。の鳥の林小。あつる。つら。隨意。さるる。さるる。
 西入。あつる。頃。速の村。あつる。兇賊ホ。謀ら。水田の中。さるる。
 打休。あつる。昏。あつる。淨淵寺の鑑忠上人。あつる。退ると。さるる。



新田系解州才許卷之二

洋洲寺知客

庵波花門

玉之

野寺の
花

新田系解州才許卷之二

中の容子を定規ゆ小。時刻ぞややく。うづり息女末のひねと吸門声と。田
 系姫ハ老臣菴崎嘉内と侍見玉芝を轎子の前後小歩と云園ちり入
 未多ハ老僧出迎。直小轎子を客殿まぐ搦入。當下玉芝。こ
 うり。轎子の戸を引あられ。田系姫ハ白綾の小袖四ツユツ被。扇をさ
 挿頭。と面がせある。気色よく。中着ハ内玉芝ハ主の後小従。ハ茶禪
 のり小居。あ。折しも鑑忠上人多。せ。對面あり。ま。寒暖を述茶をす。ぬ
 出家の功德莫大。う。う。と説き。さて。奇。と果て。後本堂小誘。引た
 ま。ハ田系姫ハ佛を礼拜。又上人を許。ま。と。小嘉内ハ準備の袈裟
 ハ衣度牒。ま。ま。の僧具を。腕塗小月星の紋著。る。基小載。く。生
 下。鑑忠上人香。以。焼。く。奉尊の。こ。對。且。く。讀。經。念。佛。して。田系姫
 剃度。の。ゆ。と。三世の諸仏小告。ぬ。告。知。小。又。跡。鳥。有。一。匹。小。温。陽。及。り。く
 歩。を。玉。芝。受。と。り。く。田系姫の前小居。ま。の。乃。体。志。め。す。小。と。と。あ。れ。り。
 程。小。入。推。く。巫。ハ。宝。幡。の。隙。より。と。ん。か。う。ん。つ。且。發。れ。且。呆。と。て。潛。小
 ち。の。中。彼。田系姫。と。り。の。未。通。女。と。と。中。に。違。れ。醜。婦。な。れ。倘。葛。城。の
 神。も。變。じ。て。わ。ら。う。岩。橋。や。引。ぬ。ん。と。笑。ひ。小。堪。ま。と。わ。ら。う。人。と。隙。窺
 へ。物。吐。き。し。ひ。さ。が。う。は。う。の。ま。ま。小。席。の。り。を。直。下。ハ。従。ひ。来。り。侍。見
 へ。ま。か。へ。ち。も。ゆ。ぬ。玉。芝。の。り。と。い。ふ。小。と。と。迷。ひ。物。と。う。け。ん。う。も。人。小。志。れ
 ん。の。ま。さ。ろ。う。け。ま。が。黙。止。し。つ。往。昔。桑。と。ぬ。ま。一。仙。人。の。布。洗。の。婦。の
 股。素。衣。を。そ。と。神通。を。失。ひ。ん。も。の。く。ま。お。ぼ。う。む。う。り。小。と。權。と。巫。ハ。懸。た
 る。幡。と。ま。ま。一。撥。遣。て。満。面。奴。わ。ら。う。これ。も。わ。ら。う。ま。居。り。り。と。の
 皆。こ。ろ。も。つ。つ。う。り。ん。鑑。忠。上。人。ハ。田系姫。の。ほ。り。近。く。す。と。對。ひ。眼。を。因
 掌。奴。合。一。ま。が。受。記。し。く。い。り。く。皈。依。三。寶。皈。依。佛。法。皈。依。師。友。こ。と。所

新編源氏物語卷之三

四

色中の餓鬼
西入花之丞



長友判僧

蒼海赤也

玉芝

田糸姫



濫忠上人

沙弥烏有

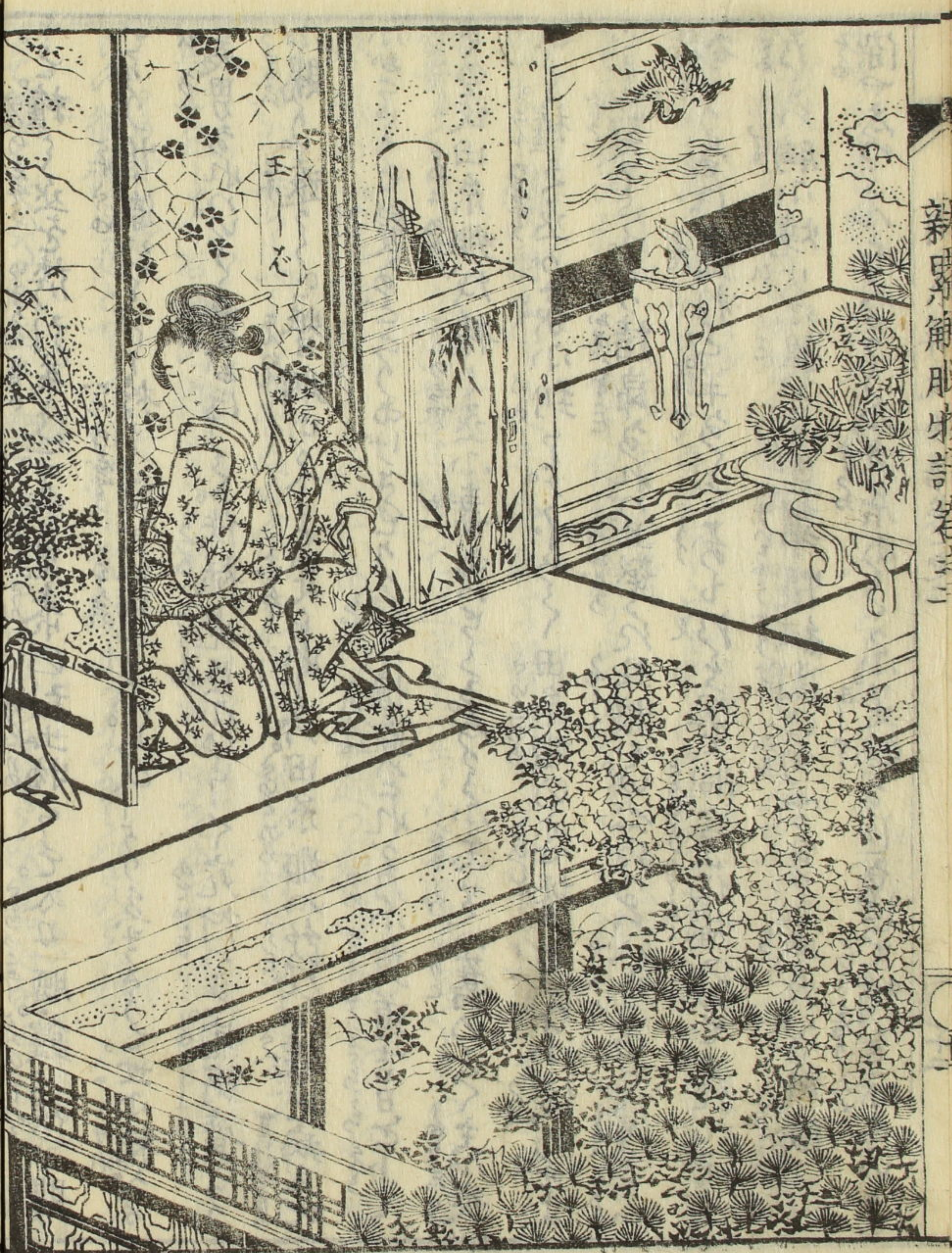
の日よ。寺内の道俗を遠ざけしむ。一定めし。やりの校見が。つが。世見
 を。闕窺る。玉芝。又喜加内。が。ま。小。薄。の。日。儘。忠。上。人。の。外。二
 芝。を。出。し。一。向。小。と。れ。又。喜。加。内。が。ま。小。薄。の。日。儘。忠。上。人。の。外。二
 人の徒。才。の。こ。り。り。物。の。蔭。小。人の。け。ひ。ひ。と。う。ん。と。い。ひ。惟。嵐。の。不。當。こ
 ま。野。于。天。物。ま。ご。り。の。隙。を。窺。ひ。く。田。系。が。道。ら。と。障。礙。ま。ご。り。の。欲
 又。實。小。の。人。あ。る。あ。る。が。夥。の。祿。を。り。これ。を。誘。ひ。彼。が。情。愿。を。遂。げ。さ。せ。べ
 一。喜。加。内。の。直。小。淨。洲。ま。ふ。越。た。く。住。持。小。が。あ。り。行。を。せ。え。し。し。の。人。あ。り。と
 ち。び。叮。嚀。小。と。受。又。よ。萬。貫。の。祿。あ。り。と。ま。ご。り。の。命。小。換。げ。た。と。く。と。仰
 る。實。小。尊。に。も。申。た。も。親。子。の。恩。愛。小。け。ら。あ。る。片。羽。あ。る。ま。い。る。は。可。愛
 一。と。世。の。常。言。小。使。され。正。小。是。田。系。の。く。小。歎。あ。る。を。縁。故。既。小。と。小
 願。し。り。と。後。小。菴。崎。喜。加。内。の。日。淨。洲。ま。ふ。ゆ。く。儘。忠。上。人。小。對。面。一。
 主君の言語と述田系姫病着の縁由と告惟嵐父子の恩愛遣とて。世の誹謗とつりえむ。かく。向。ま。ら。と。せ。え。進。く。ま。ご。り。の。己。と。成。得。ま。ご。り。の。あ。り。
 ち。く。と。の。人。を。賜。り。ゆ。と。く。ひ。と。ふ。す。と。く。上。人。ゆ。く。と。く。怪。一。と。足。下。と。も。ん
 ぬ。と。く。彼。日。寺。内。の。道。俗。を。遠。ざ。け。て。法。師。二。人。の。外。小。す。ま。ご。り。彼。亦。小。向。ゆ。べ
 と。く。その。日。今。副。小。侍。り。る。波。弥。烏。右。と。い。ひ。て。か。る。ま。あ。り。母。の。人。を。ま。ご。り
 と。同。あ。ら。の。波。弥。の。原。江。別。佐。と。木。の。廣。流。某。が。子。あ。り。父。母。世。を。ま。ご。り
 と。り。く。十三。歳。の。春。下。總。國。飯。沼。る。弘。經。ま。ふ。の。り。て。受。記。一。彼。知。小。あ。る
 と。五。七。年。小。及。び。近。属。は。縁。小。と。り。く。の。淨。洲。ま。ふ。萬。居。り。その。宏。才。處。悟
 萬人小勝と経とく讀むとて。道とて修むとて。彼。の。ま。ご。り。の。あ。り。つ。つ
 と。あ。り。道。の。道。と。ま。べ。た。の。常。の。道。小。あ。る。と。名。の。名。と。ま。べ。た。の。常。の。名。小。あ。る。と。ど。
 これ。老。子。の。語。老。佛。一。體。あり。され。ば。釋。教。萬。卷。の。經。文。も。は。説。盡。と。小

新撰御成道傳卷之二

二

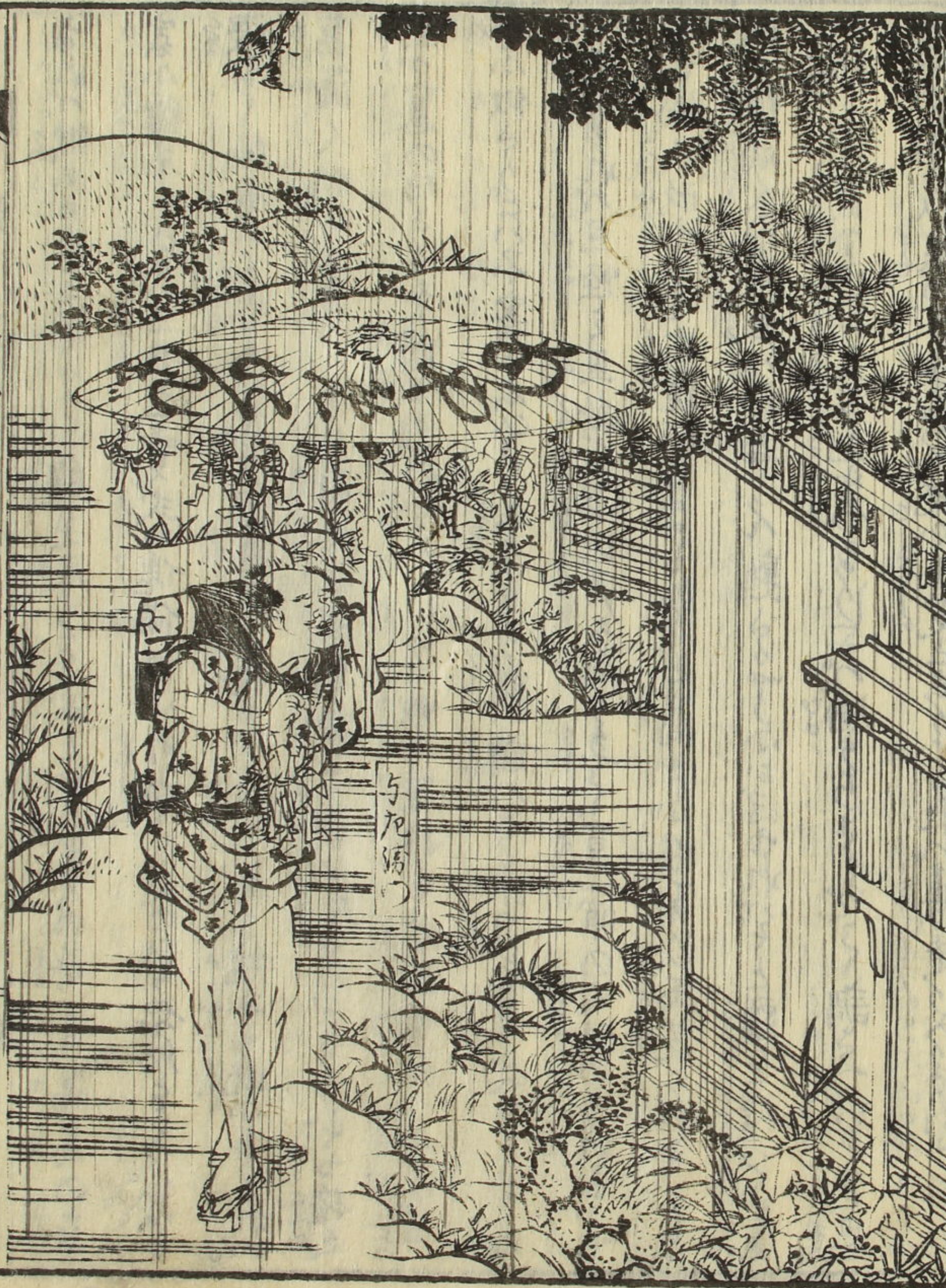
小僧とてあつては、この瀬忠上人とてあつては、
 の大檀那あれども、伊予く推辞が、これ小僧とてあつては、
 足らり。まづ菴崎氏小引あつて、まづ嘉内小引ひ。奉の顛末、目今ける
 るが如し。この弱人の拙僧小倍縁脱が、これのまゝ。西入権とてあつては、
 原末下總の國人少く、人もあつては、醫師の子あり。父母没して、よりり
 寔しくあり。わが父の業を嫌ひて、近曾が、寺小末に、具くとあつては、
 誓縁のまゝ法師のつらふ、いふあつては、檀越の懇望、黙止が、これの権
 ら、まゝ進らまへと。回答あつては、内方小引ひて、杖とてあつては、
 馬と花とて、石濱の館小走り。つらふ。富小引ひて、あつては、
 ら、彼権とてあつては、住持小俗縁あつては、のまゝ。賤し、これのあつては、
 と。懸て、この小田系姫小引ひて、次の日、ゆび喜、如月を、淨用寺小遣
 と。権とてあつては、誘引まじ。まづ見奉の引出物とて、太刀一腰、鎧一領と賜
 せり。惟胤、つらふ。杖とてあつては、亦肉とてあつては、ひより、まゝ。つらふ。世小稀あつては、
 美男あれ、いよ、愛あつては、つらふ。伏祿老臣小引ひて、穴行の、宿所廣らつては、
 小賜り。遠く、まづ誓姻あつては、と定られ。小田系姫の、飲ひ小甚と、病まじ
 小あつては、つらふ。髪あつては、つらふ。後小、惟胤の、これが、小黃道吉日とて、
 どの夜、田系姫、杖とてあつては、小妻あつては、つらふ。あつては、小玉芝の、舊馬の、まゝ。小從
 ひ、権とてあつては、杖とてあつては、小到。つらふ。まゝ。田系姫の、赤心、堤目とてあつては、小後の、世ま
 づ、契とてあつては、つらふ。情、昂あつては、つらふ。且、恨とてあつては、つらふ。八百日、ゆび。償の、まゝ。
 破より、まゝ。盡ねど、半あつては、まゝ。いよ。洞房、花燭の、まゝ。つらふ。
 乃、胸小、焼火小、異あつては、つらふ。翠帳、紅圍の、匂あつては、つらふ。血、まゝ。は、あつては、決り
 深、まゝ。つらふ。と、つらふ。小。まゝ。居あつては、つらふ。足踏、まゝ。つらふ。情を示、まゝ。つらふ。

新編源氏物語

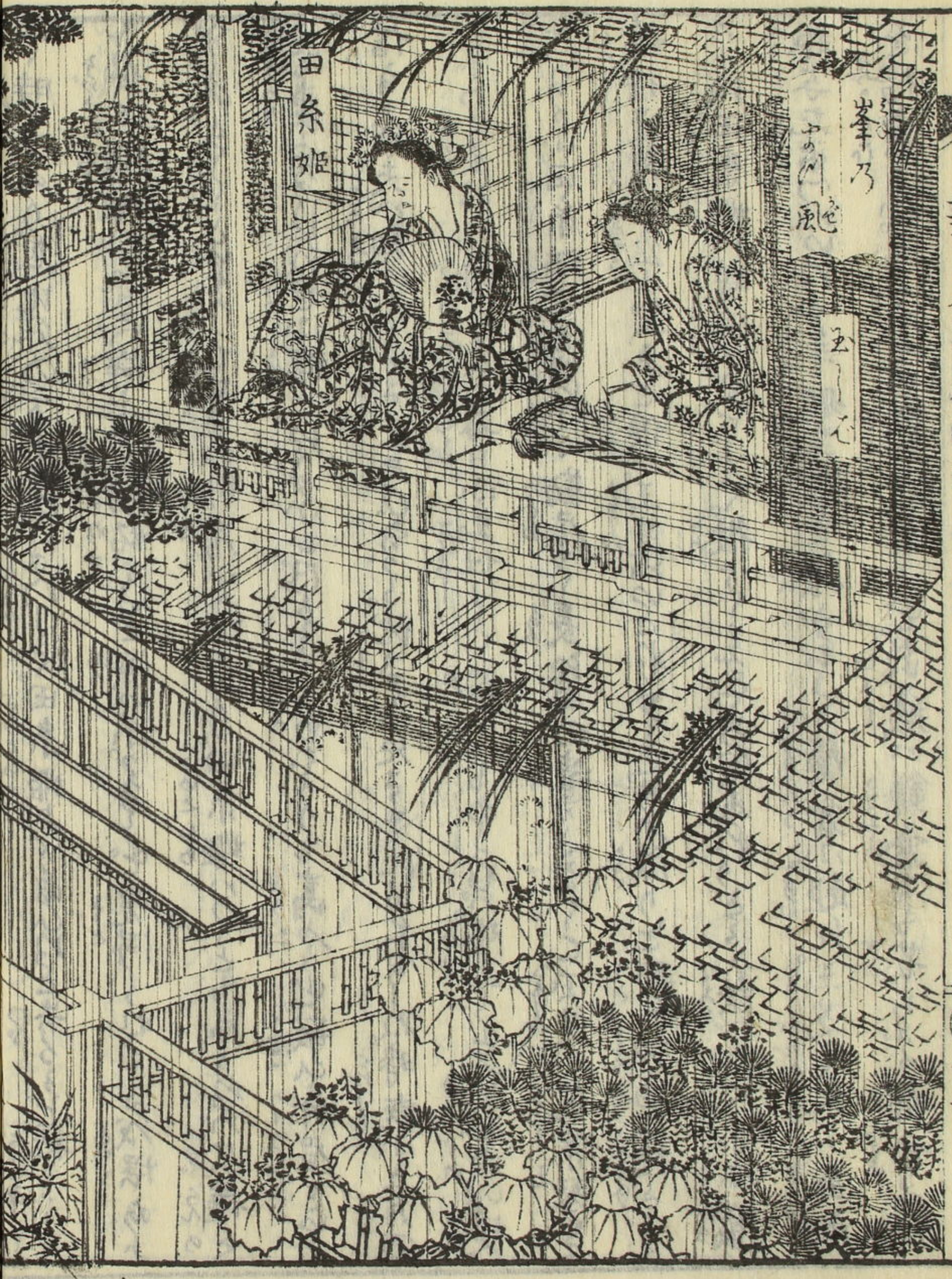


新編源氏物語

葉家の咎とあれる。富貴両あつては、いふもなき。彼醜婦ともくけり。
あぐみ牙と樂か。これ蚯蚓とせり。奥を釣の謀あり。そのつら。猜ともあふ。
これいづの富どか、めりとも。其身、つらふあつと。さへいふ。いづれも。彼鳩撃茶と妻とを
を死。つらもつら。音中、小あり。あつら。あつら。と。つらもつれ。いづれも。疑ひと散ぬ。と。
さつと。小の尉心ぬ。と。玉芝か。こ。未。つり。なを。同。小。玉芝。も。や。と。さ。余。と。う。
笑。さ。も。も。も。さ。さ。さ。権。も。恨。ゆ。り。と。悔。ひ。が。ひ。日。千。葉。家。の。列。卒。小。打。拍。た
る。月。の。ご。も。の。廣。長。沼。太。帛。高。屋。鳳。五。帛。と。あ。ん。と。つら。盜。賊。と。し。が。が。身。を。縛。と。ひ。
鳥の社頭小剣とせり。折すも惟流の猫と。帰とぬ。小逢進。と。二賊の支比
小誅とせり。さ。あ。れ。小。牙。の。既。小。打。殺。され。ぬ。ひ。ん。と。さ。小。さ。の。屍。も。さ。え。ど。甲。上。夜
の。間。小。猛。獸。の。銜。と。さ。つ。つ。ふ。と。さ。ど。め。さ。う。が。悲。歎。い。つ。ら。あ。つ。つ。ら。唯。流。の。便
を。館。小。誘。引。ぬ。ひ。つ。り。膳。と。田。系。姫。小。せ。り。仕。終。り。と。是。彼。の。會。話。小
や。時。も。つ。つ。の。忽。此。外。の。小。人。の。世。門。と。田。系。姫。と。り。ぬ。ひ。と。さ。つ。と。柱。と。坐。耳
と。側。て。醜。婦。の。心。へ。僻。と。く。物。好。と。し。深。と。い。ふ。も。ど。曉。得。と。ぬ。ふ。と。恨。あ。り
と。う。と。う。と。い。と。つ。り。て。舊。の。卧。房。小。と。つ。り。田。系。姫。の。つ。ら。も。さ。つ。ら。只。権。と
と。妻。と。り。ぬ。ひ。世。小。娘。と。ぬ。ひ。小。お。ぼ。え。と。あ。つ。つ。も。高。か。と。敬。ひ。弁。眉。と。い。と
信。有。る。と。夫。の。却。と。う。と。つ。と。い。ひ。あ。つ。つ。此。も。さ。つ。つ。に。ぬ。と。つ。つ。め。時。既。小。五。月。の
と。う。小。至。れ。り。権。と。承。ひ。毎。日。小。出。仕。と。つ。つ。家。小。も。あ。つ。つ。降。と。つ。送。梅。雨。の。徒
然。と。小。田。系。姫。の。窓。の。下。小。勤。居。と。長。日。の。遣。つ。つ。と。玉。芝。小。沈。紫。琴。を
操。持。さ。権。と。承。ひ。つ。と。候。ハ。玉。芝。の。と。れ。と。つ。つ。と。つ。つ。限。り。と。教。小。調。曲。小。托。と。り
つ。つ。田。系。姫。の。曉。得。と。つ。つ。彼。と。つ。つ。と。つ。つ。奴。あ。れ。り。と。つ。つ。飲。べ。り。と。つ。つ。亦。織
越。と。た。つ。つ。の。い。ね。の。羊。羽。生。村。を。後。と。つ。つ。藤。倉。小。赴。た。玉。芝。と。冬。が。在。処
を。指。索。し。つ。つ。と。つ。つ。の。往。方。と。さ。つ。と。武。藏。の。鎌。倉。も。あ。ら。と。つ。つ。都。會。の。比



与左衛門



田糸姫

峯乃
お月

玉心

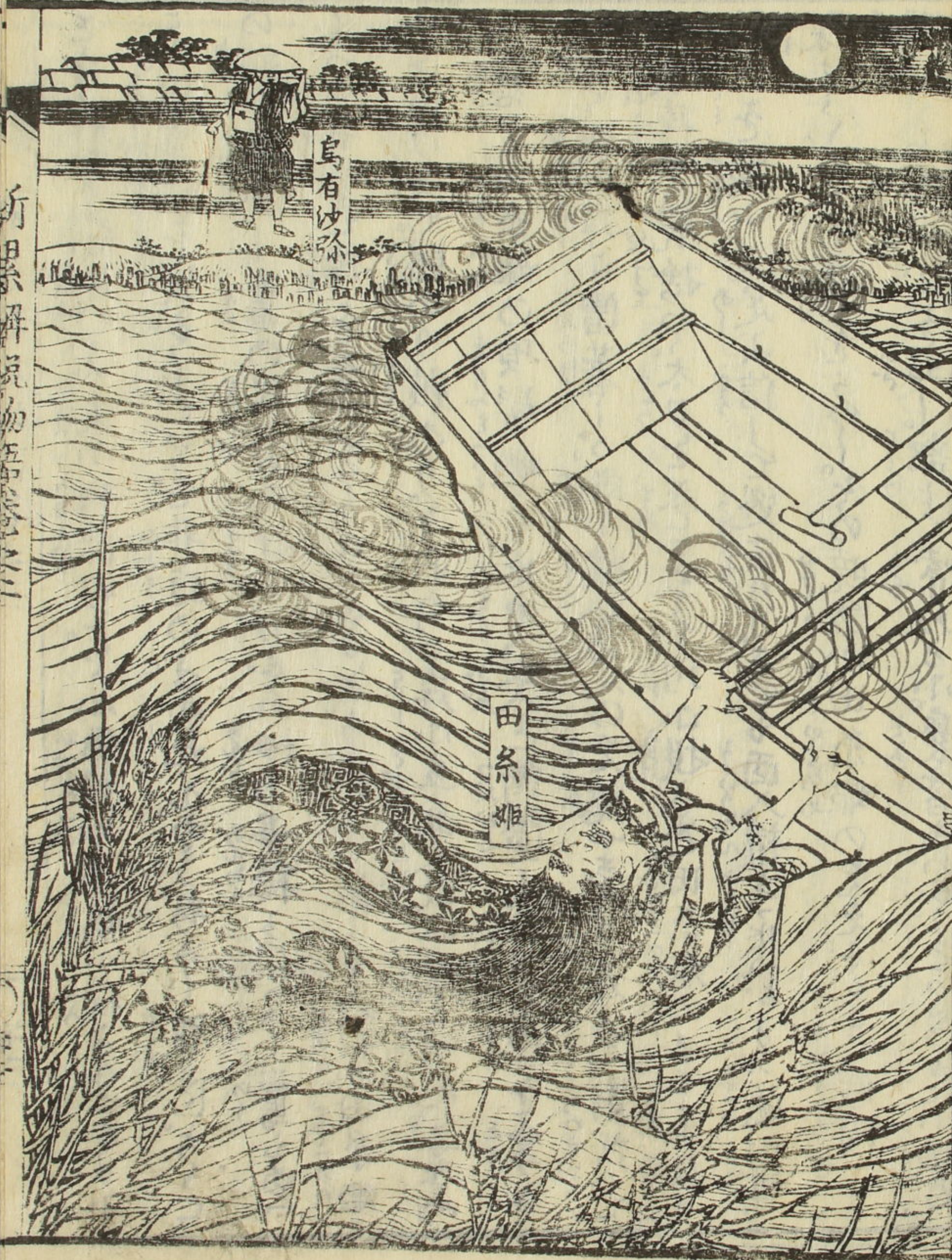
あれが彼ホリそのそり小鯨を居るとやとかいひてそのまう陽島の在
 家小橋居し。あま三物を賣式の傀儡師小打扮く。人のつらぶたさうの残る
 隈多く経麻止つ。春もいづくに暮暮。夏もや羊小至る。端牛も既小ちうれば
 昔蒲人秋と賣らんとき。夥の木偶を傘の裏小結さげ。さうらぶち権之
 丞が窓のはよりを過る小。只今凡音と歎小操持と琴の唱歌ハ玉芝の声
 音小似たり。その不審とひくまをさうり。熟聴がさく小つけ。まふぶらもあぬ
 ものくるれば。且怪と且泣び忽地声をとりま。昔蒲の人秋められさや
 小長衛人形もゆど右近のろまもゆと。高す小ぬてさうり。玉芝られさ
 奥小彼商人のよひ声へちとやえ。熟するさう小おはゆれば。と頭を擡つて。廉
 の隙より直下小。前夫と九也つりまじふ。胸うちさうさう調へ。乱ると思
 ひつとさうと。果つと九也つり既小玉芝とさうり。これの直小走らう。さうりも捕る
 まほくつわれと家のかり千葉家小。威執ある老臣もこの宿あつるべ
 くつと。小然止る。只その窓小目標し。と遺憾け小帰りたり。ひくさう
 曠昏小権之丞館より退つて。浴さうり。玉芝の浴衣まわさうり。さうり
 とのろり。到り。汗の流る。さうり。如此このみゆり小。あむか
 けぬ前夫が昔蒲人秋を賣る。窓の下と過る。さうり。声音を聴怒んま
 ち。まも去らざりしと物さうり。小権之丞ゆき。あが。桑思し。忽地。さうり
 りの彼と九也つら。の比小未り。商人小あり。さうり。自身とこれを穿んか。あへ
 と。これつて。謀あり。成ら。日未の情愿を果さん。ものと易し。その計較も。箇
 様。さうり。と。身とさうり。あ。ひ。を。め。た。ま。う。り。玉芝への相諮詢も。景護。さうり
 を。さ。る。物。小。紛。ら。ひ。走。り。去。れ。さ。う。り。織。越。と。九。也。つ。玉芝が在。処。さ。う。り。怒。り
 う。り。さ。う。り。頻。小。焦。燥。さ。う。り。次。の。日。も。彼。処。小。赴。り。権。之。丞。が。窓。の。は。より。を。往。つ

新編海月言書卷三

二七

とうろく小舟をりて、こゝろの人ありとて、返られし扇を半開たけし、招
 けのせむせむと走り、まの點火のこゝろ、声なきがらうとむかひと外のち小走し、出
 こまを引あめていそぐ、程小墨田川原まゝ、落伸なり。とよて一息、功に向ひ
 へ度さんともれども、夜の渡守のあつたれが、彼此と走りあぐ。竹の蘆の中、
 敷系に捨る小船ありり。これ究竟ありとて、遠く女双扶桑とて、小舟に
 懐より紙包抄生舟、舟小當りて、鏗と音なる。女と舟とを、捨し、こゝろ
 彼夥の金をとまりて、未れり。のる時、もいこのころりり、とあふ、いと憎
 む。とて、纜解捨て、その舟も、閃と飛棄つ。棹とて、漕出せり。その日、淨閑寺
 へ、波流鳥有、猛小弘、經寺小歸らんと、愼忠上人小告別し、既小立、おんとする
 を、よるころ、あつたれを留めり。あつたれ、暮るんが、あつたれ、翌の朝、あつたれ、發
 足、あつたれ、と、定り、あつたれ、鳥有、答ふ、小僧去、歳より十八年、が、間、小二男、二女、を
 濟度まじ、因縁あり。と、小まの、り、も、れ、が、乃、今、歸らんと、あつたれ、が、破られ、
 且くも、躊躇、あつたれ、殊、あつたれ、其の、後、の、夜、を、涼、く、て、路、ゆく、小、よ、けれ、と、や
 退り、あつたれ、錫、を、合、手、を、戴、け、て、走り、出、る、小、短、夜、の、あ、つたれ、あ、つたれ、
 暮、て、い、く、程、も、あ、つたれ、と、既、小、初、更、の、比、も、あ、つたれ、ぬ、が、く、と、鳥、有、の、次、田、柳
 島、を、と、ろ、び、と、墨、田、川、の、畔、小、到、り、と、あ、つたれ、小、目、今、槽、也、と、渡、船、の、あ、つたれ、
 くれ、の、あ、つたれ、便、船、と、ん、の、船、が、一、俣、ゆ、と、あ、つたれ、と、い、び、り、け、し、と、時、小、忽
 比、雪、雲、齊、れ、く、十六、夜、の、月、隈、あ、く、照、り、金、波、水、陸、小、映、と、あ、つたれ、あ、つたれ、
 づ、く、の、海、吹、ら、ら、の、川、風、小、船、あ、り、り、る、女、の、被、衣、と、と、裏、つ、る、小、と、左、也、つ、の、と
 小、あ、つたれ、の、面、を、と、れ、が、玉、芝、よ、い、の、あ、つたれ、と、夜、又、小、等、と、醜、婦、あり、と、こゝろ
 とも、ゆ、つ、小、と、呆、果、は、い、り、鬼、と、同、が、田、系、姫、も、又、権、之、丞、あ、つたれ、と、あ、つたれ、を、と、て
 ち、小、致、た、具、の、欺、む、と、る、を、曉、は、く、憤、小、堪、む、は、つたれ、が、身、を、何、れ、の、と、同

新編 日本書紀卷之三
 七二



鳥有沙弥

田糸姫

新田景清伝巻之五



跡見
市保

与九郎門

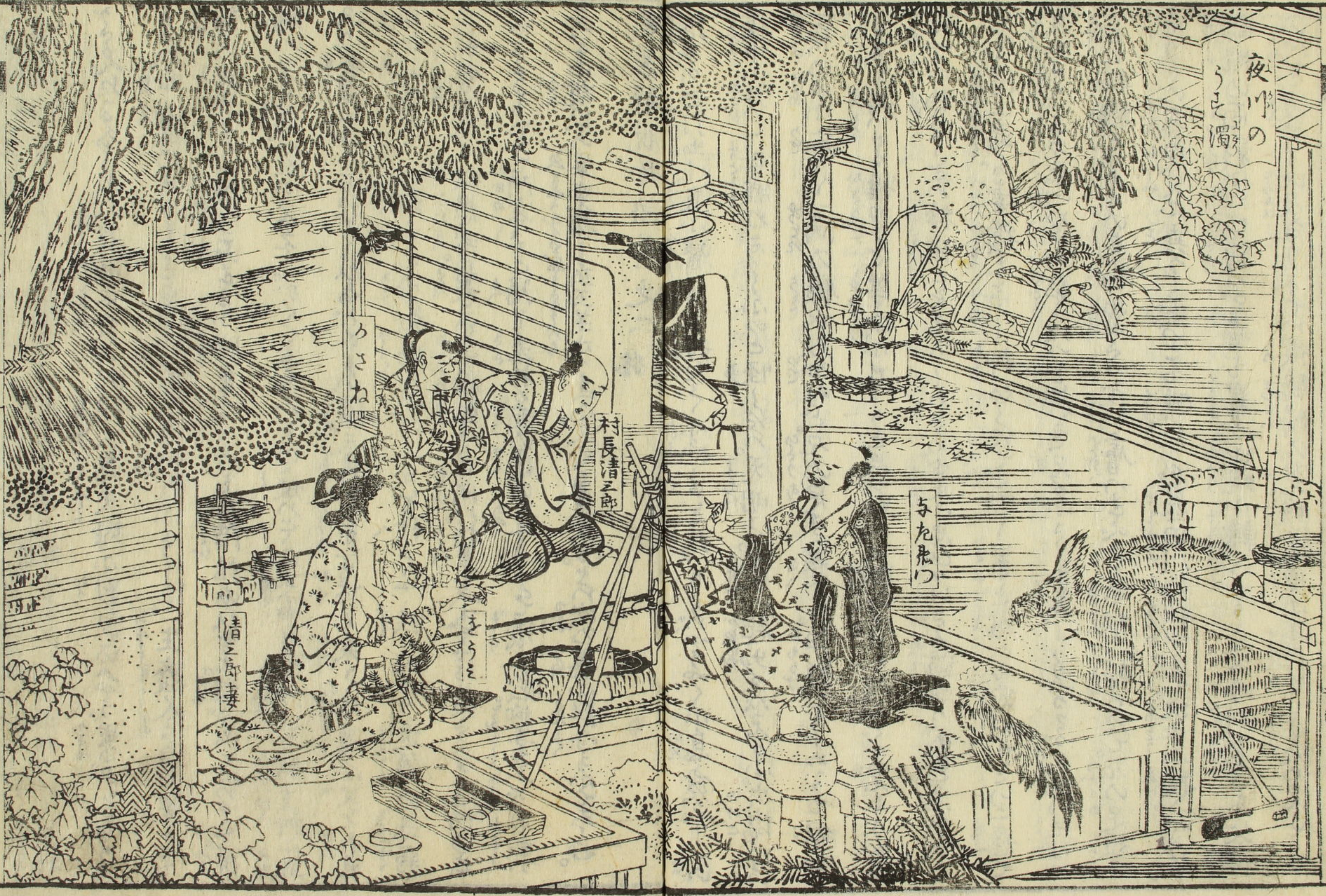
新田景清伝巻之五

九

とあつれおの小使はつが夫小相詰れてる小仍引出。竊小殺さんとさる小
 こと。遠莫恨をいつて。どうも非道のもふ死ん。あつね。腹に。うくと
 の船を漕戻し。舊の岸方小扶あげ。伊も安穩。うら。罵もあ
 ると寄つと棹を棄いとるんとさる。さ。とあつと。小田糸姫
 声とつり。て。賊あり。賊あり。それる。岸小立。在入。救ひぬ。と。呼れ。手あ
 大小怒。田糸姫の項髪。廻。水中。火と衝。撞。忙。棹を奪る
 ほう。向の岸小漕著。既小彼処の人の又怒。あつと。さ。小影。護。て。
 麻衣袴を脱捨。つ。太。りと。巻。さ。川小投入。田糸姫の。て。未。り。る。
 紙包を懐小。足。よ。信。と。逃。去。り。さ。も。西。入。権。え。水。も。り。隨。小。謀。
 裸。さ。あ。ち。時。を。ら。う。さ。の。曉。方。小。田。糸。姫。の。え。え。さ。と。て。俄。頃。
 騒。だ。も。彼。此。入。を。お。部。と。索。ね。る。小。衆。を。あ。め。ら。う。と。い。ふ。こ。い。ぬ。

期である。小の。と。と。詰。朝。縁。由。と。惟。流。父。子。小。女。さ。さ。小。惟。流。の。く。愕。死。
 然。以。神。の。幣。帛。を。獻。し。佛。の。香。花。を。進。す。と。小。顧。小。田。糸。姫。恙。あ。く。と
 歸。り。未。ま。さ。ん。の。と。禱。る。の。外。化。事。あ。る。日。を。連。く。遠。く。人。を。出。す。の
 往。方。と。携。索。ん。と。さ。る。小。さ。と。て。好。音。も。あ。つ。れ。が。世。小。あ。死。人。と。あ。ひ。は。追。善。の
 佛。夏。町。噂。小。言。さ。る。さ。の。あ。れ。田。糸。姫。の。逐。電。と。縁。故。と。權。を。承。れ。さ。る。
 小。小。さ。さ。と。あ。つ。と。り。一。且。誓。言。を。さ。す。と。出。れ。さ。と。と。い。企。め。る。か。心。比。こ
 驚。小。惑。と。さ。の。と。成。果。さ。る。眞。罰。小。さ。さ。さ。比。獄。へ。墮。入。又。魅。魅。さ。と
 つ。あ。の。小。誘。引。と。や。あ。ん。と。く。の。頂。の。あ。の。人。の。あ。の。あ。の。あ。の。あ。の。あ。の。あ。の。あ。の。
 さ。る。小。と。丸。出。つ。つ。玉。さ。さ。の。あ。く。小。係。さ。さ。さ。既。小。人。を。殺。し。れ。が。更。小。あ。の
 べ。死。便。を。う。さ。の。路。の。三。里。邊。伸。く。奪。さ。り。る。紙。包。と。う。ら。雨。死。と。さ。る。小。
 五。六。十。兩。の。金。あ。り。り。と。さ。の。と。さ。り。と。も。さ。る。あ。の。あ。の。あ。の。あ。の。あ。の。あ。の。あ。の。

新編海月言書卷之三



りさね

村長清之郎

与九郎門

清之郎妻

夜川の
うらと濁

